

## 酒田市総合計画審議会 第2回産業交流部会 議事要旨

### 1 日時

令和3年12月27日（月） 18:30～20:10

### 2 場所

酒田市役所 703号室

### 3 出席者

【酒田市総合計画審議会委員 産業交流部会委員】

所 属	氏 名	備 考
酒田商工会議副会頭	高橋 幸雄	部会長
酒田青年会議所直前理事長	佐藤 愛	副部会長
荒生木材有限会社	荒生 麻夕美	
株式会社良品計画 無印良品酒田 POP-UP STORE 店長	石田 佳奈子	
連合山形酒田飽海地域協議会議長	佐藤 克	
庄内みどり農業協同組合理事	高橋 身依	
酒田ふれあい商工会会長	富樫 秀克	
山形県漁業協同組合専務理事	西村 盛	
東北公益文科大学公益学部長	三木 潤一	
有限会社若葉旅館専務取締役	矢野 慶汰	
The Hidden Japan 合同会社代表	山科 沙織	

#### 【事務局】

副市長、地域創生部長、産業振興調整監、建設部長、農林水産部長、  
上下水道部長、広域連携推進調整監、  
企画部長、デジタル変革調整監、企画調整課長、企画調整課職員

### 4 議事内容

○事務局より会議の成立について報告

- ・本日の出席委員は 11 人であり委員定数 12 人の半数以上となっていることから、酒田市総合計画審議会条例施行規則第 4 条第 2 項の規定により、本日の会議は有効である。

## 5 あいさつ

産業交流部会長 高橋 幸雄

酒田市副市長 矢口 明子

### 【高橋部会長】

1 回目は十分に話をしてもらうための時間の余裕がなかったので、今回は 3 グループに分けて行うことにした。時間を大事にして今日もよろしくお願いします。

### 【矢口副市長】

私からお願いしたいことは、行政目線ではなく市民目線、委員の視点で書かれているか、市民みんなの計画になっているかどうかの点から指摘や意見をもらいたい。産業交流部会の大きな目的は、稼いで、所得を上げて、外から若い人あるいは酒田の若い人が酒田に居ついてもらって人口減少が少し抑制されるようなサイクルを作ることだと思っている。まだ十分ではないと思っているが、なぜうまくいかなかったのか、どうしたらいいのか、そのために民間企業、地域、市民がいろいろなことをしているので、それらを包含したような計画になっているかどうか。スペースが限られるので行政がやっていることが中心になると思うが、全体を俯瞰したうえでの書きぶりになっていないと委員をお願いした意味がない。そういう視点で見直してもらいたい。よろしくお願いします。

## 6 審議

### (1) 現状における課題

・参考資料に沿って事務局より部会の進め方について説明。今回は 2 回に分けて話し合いを行う。1 回目は第 2 章、第 3 章の現状における課題をグループごとに議論した後、その内容を全体で共有する。2 回目は第 6 章及び産業交流部会所管政策全体について全体で議論する形で行う。

### ○現状における課題についての意見等（グループ単位での討議結果）

#### 【第 2 章地域経済が活性化し、「働きたい」がかなう酒田】

〔政策 1 地域経済を牽引する商工業が元気なまち〕

- ・中小企業という文言を使っているが、経済センサスで酒田には 5,017 社あるが、そのうち 1,077 社が中小企業であり、それ以外は小規模の事業者という実態を踏まえて、小規模事業者という視点を入れてほしい。
- ・サンロクの利用について、高校生も使うような働きかけ、例えば、高校生が自分の将来の仕事の情報収集ができるような場づくりが必要ではないか。

〔政策2 「港」の物流機能により産業競争力が高いまち〕

- ・カーボンニュートラルに対応した文言があるが、石炭火力の視点が無い。偏ったエネルギー施策だと危険だ。貢献している石炭火力の視点も入れてはどうか。
- ・広域物流ネットワークの構築については、東北横断自動車道酒田線、みちのくウエストライン、地域高規格道路新庄酒田道路と日本海沿岸東北自動車道との4本立てセットで記載するのがいいのではないか。
- ・庄内空港を使った輸出入の拡大の施策を落とすことについて、庄内空港ができたときにはフライト農業として花きを輸送していた経緯があるので、施策を落とさず、昔の歴史も含めて再検討とする。

〔政策3 地元でいきいきと働くことができるまち〕

- ・雇用のミスマッチという言葉があるが、希望する業種、職種に合わないということだけではなく、労働条件等待遇の面で合わないことなどいろいろな意味があるので、その中身を精査して記載すること。
- ・高校生の早期離職については、企業に育てる余力がなくなっている。同期が少なく話し相手もいないという就職後の課題もある。
- ・女性活躍の促進について移住者を紹介する冊子があるが、どれだけの人が見ているかわからないが、写真と文章が少なくて良くわからないので、働いているシーンなど見せ方を工夫したほうがいいのではないか。今ある媒体のブラッシュアップをしたほうがいい。
- ・市では家事シェアのチェックリストも作成したので、男性の家事育児参加を進めている状況である。
- ・高校と市の連携については、連携することで女性が働きやすいということにつながるのではないか。

〔政策4 夢があり、儲かる農業で豊かなまち〕

- ・「担い手の確保・育成」に記載の伝統的な食品加工品等の技術継承に関連して、その先の販路もきちんと考えることが必要である。

〔政策5 100年続く森林を造り、活かすまち〕

- ・「酒田産木材の安定供給体制づくりと利用促進」で削除した「酒田産木材に対する認知度は高いとは言えない」という部分は、まだ周知が足りていないので、削除せず周知に努めるべきである。

〔政策6 恵み豊かな水産を活かすまち〕

- ・漁業者の新規就業は県外からのUターンも多いが、住む場所への支援がない。

【第3章 ファンが多く、移住者・定住者・観光客が増加する酒田】

〔政策1 移住者・定住者が増えるまち〕

- ・移住に関連して、東京等から酒田に来た場合に、金銭面に限らない支援の充実が課題である。  
例えば、自動車の手配や免許の取得支援等ニーズに合った支援制度の充実が課題ではないか。
- ・定住に関連して、若年層が仕事がないので市外に流出しているという問題点がある中で、若年層に市内の仕事の見える化がなされていないのではないかと。伝わっていないが魅力的な仕事があるのではないかと。それをしっかり伝えれば定住につながるのではないかと。

〔政策2 「おもてなし」があふれ、交流でうらやままち〕

- ・観光において、コロナ禍で地域の観光を支える人材の活躍の場が失われている。そういう人は高いモチベーションをもって臨んでいるが、活躍の場がないことでモチベーションを維持するのが困難になっているのではないかと。
- ・ビジネス目的の人を対象とした満足度を高めるような宿泊施設が、現状不足しているのではないかと。
- ・そもそも情報発信が不足していることで地域の資源が伝わっていないのではないかと。

〔政策3 「港」発の交流で賑わうまち〕

- ・「いかのまち酒田」については、出航式をメインとした一過性の取り組みになっているのではないかと。観光の面からも、イカ以外の水産物を含め、よりブランディング化を進めていくことで、酒田に来る観光客が増えていくのではないかと。
- ・港湾、空港両方含めて、港を核とした広域観光がまだまだ不足している。

【第6章 都市機能が強化され、賑わう酒田及び第2章・第3章も含めた全体】

(委員) カーボンニュートラルポートに関連して、カーボンニュートラルは石炭を燃やすことを減らすことではないはずだ。石炭を燃やして何かするのであれば、発生する二酸化炭素をなくするような、先ほど洋上風力発電の話も出ていたが、それでニュートラルにするのだということを入れないと変な誤解を生むと私も思った。酒田ならではの表現にすべきということに私も賛成だ。減らすのではなく合わせていくのが大切だと思った。

(委員) スマート農業研修センターはどういったことをしているのかわからないが、スマート農業は今とてもキーワードになっていて、ベンチャー企業などが多く出てきている。ITを使った農業を進めていくことは話題になっている。酒田市が地元農業を促進するための支援というか、これから始める人もそうだが、今現在農業をしている人に対してITの導入の支援やITを使うにあたっての教育が必要だと思うが、どういったことをするのか。

⇒ (農林水産部長) スマート農業研修センターは、現在はメインとして「もっけ田農学校」の拠点となっていて、同校では水稲に特化した1年半の研修を行っている。研修生は11人。今年の10月から始まった。前半の半年は座学を行い、来年の4月から10月までは現地に入り、先輩農家から指導を受ける。残りの半年は応用的な研修を受けるものである。その中でスマート農業に取り組んでいる。今は、ドローンを使ったセンシングを行い、肥料散布の効率化を行っているところである。具体的には土壌をドローンでセンシングして葉の色で肥料

が足りているかどうかを判断して、農家が肥料をどこに入れたら効率的かを判断して施肥するというところから始めている。スマート農業というと無人の自走トラクター等いろいろあるが、まず酒田市はセンシングでやって、土づくりをしっかり行うことで収量を上げていくという取り組みをしている。最終的にはスマート農業研修センターが情報拠点となって、スマート農業の発信をできればいいと考えているがまだ課題はある。まずは土づくりのためのスマート農業を行っている状況である。

(委員) スマート農業のベンチャー企業とのオンライン会議に参加したことがあるが、その時に現在農業をしている人でも経費を抑えて簡単に始められるものや、高額なシステムを導入して農業することなど、いろいろなパターンの農業へのITの導入の仕方を知ることができた。そういうことに対する酒田市としての支援の仕方が今後あれば、今担い手不足や高齢化は酒田市だけではなく課題としてあると思うので、そこに対するアクションも必要ではないかと感じた。

⇒ (農林水産部長) スマート農業に対する様々な支援ができればいいが、国や県もスマート農業に対して力を入れている。市以上に国が支援することもあると思うのでそういった情報は、我々も発信していかなければいけないと考えている。意見を参考に支援できるような体制は組んでいきたい。

## 7 その他

(委員) 特急いなほは乗客が非常に少ない。在来線がこのような状態では高速化はとんでもない話だ。むしろ特急どころか電車の運行がなくなってしまうまちなになってしまうのではないか。山形新幹線では農産物等を輸送するような取り組みをしている。そういう工夫ができないか。意見である。

## ○連絡事項（事務局より）

- ・次回の部会の日程は、来年1月26日（水）午後4時から開催させていただく。

## 8 閉会

以 上